①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・10までの数について，数の数え方，唱え方，数字の読み方，書き方，数の大小，順序などを学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・数えるものと数図ブロックを1対1に対応させて数える学習をしている。

教材研究ノート№1-A-5

≪学習問題≫

クリップやビー玉は，それぞれいくつある

でしょうか。間違いなく数えてみよう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

**![MCj02503040000[1]]()**

②見通し:10より大きくて，数えるのが大変。

→数図ブロックを置いて，並べてみればわかりやすい。

②学習課題:クリップの数が一目で分かるように，数図ブロックを並べて，数を確かめてみよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:まとまりのつくり方を工夫して数図ブロックを並べて数える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「それぞれの並べ方で同じところはどこかな？」

→「10のまとまりをつくって3を別にしている。｣

④共同追究後半（思考を深める）

｢10は，10といくつということだろうか？｣

→「10と0，10にまとめると残りがないということ。」

「10の『１』は何かな？」　「10の『0』は何かな？」

→「１は、『10』のこと。10が１つあること。」

「10にまとめた後に残っている数が0。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・10より大きな数は，10といくつになるか，10のかたまりをつくるとすぐにわかる。

⑥定着･活用問題

(1)「16」が一目でわかるように数図ブロックを並べよう。

(2) この数はいくつを表しているか数字でかいて，読んでみよう。(数図ブロックで示されたカードを提示)

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・数図ブロックに置き換える際には，1対1対応を大切にし，具体（クリップの絵）⇔半具体（数図ブロック）⇔抽象（数）の行き来をていねいに扱いたい。

・「まとまりをつくる」という算数的な考え方は，今後の学習で多くの単元や場面で活用する考え方であるので，「一目でわかるよさ」をまとめと定着問題で大切に扱いたい。

【板書計画】